

# 国語科学習指導案

単元名 「詩を味わおう」

教材名「わたしと小鳥とすずと」〔学指要領：知(1)ク、思C(1)オ、思C(1)カ〕

人権教育 重要課題 (2) 子どもたち

令和5年10月27日(金) 第5校時 3年〇組教室

## I 単元の構想

### 1 単元の目標及び児童の実態

	目標	児童の実態
知識及び技能	・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。〔(1)ク〕	(削除)
思考力、判断力、表現力等	①文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。〔C(1)オ〕 ②文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。〔C(1)カ〕	(削除)
学びに向かう力、人間性等	・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや言葉を伝え合おうとしている。	(削除)

### 2 評価規準

知識・技能	①文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。
思考・判断・表現	①文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 ②一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。
主体的に学習に取り組む態度	①友達との感じ方の違いに積極的に気付こうとし、学習課題に沿って、詩を読んで思ったことや感じたことを深めようとしている。

### 3 人権教育とのかかわり

急速な情報化社会の進展、平和への不安、そしてコロナ禍等、予測困難なこれからの時代を生きていく子供たちには、多様な他者と協働しながら持続可能な社会の創り手となる「未来を生き抜く力」を育成することが求められている。

しかし目の前の子供たちをみると、次の三点のような憂慮すべき事柄が挙げられる。一点目は、みんなと同じであることを好み、出過ぎることを嫌うこと、二点目は人それぞれ違うことや多様性の価値を認める大切さに気付いていないこと、三点目は自分の思いを主張することが多く、他人の気持ちを慮ることが難しいことである。

その一因として、ここ数年、感染症対策の一環として、対話や触れ合いの場が失われていたことが考えられる。意見や思いを伝え合う経験の乏しさは、意見交流の際に自分の考えを表現することへの躊躇をうみ、集団活動の制限は、他人と折り合いをつけながら円滑な人間関係を構築することへの意欲や機会を損なってきた。個別の活動を重視し、協働的な学びを避けてきたことにより、本来学校生活で培われるべきであった、他人への関心や思いやりといった他者理解や多様な価値の尊重、あるいは集団を通しての自己理解等、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」人権意識や人権感覚が十分に育成されてこなかったと言えるだろう。

教材「わたしと小鳥とすずと」では、わたしと小鳥とすずを比較しながら、はかないもの、か弱く小さいものへの思い、他者と違うことや価値を認めることの大切さを表現している。主題に迫る中でそれらについての考えを深めさせたい。

また、対話や話し合いを通して一人一人の感じ方の違いや詩の捉え方が違うということに気付かせることで、自分の考えとともに、他者の考えも大切にしようとする気持ちも高めたい。

【育てたい能力・態度】

○感性：自分だけでなく他の人や生き物を大切に作る心に共感する。

○知性：それぞれのよさを認め合うことの大切さを理解する。

4 指導及び評価、ICT活用の計画（全2時間：本時第1時）

※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	主
1	「わたしと小鳥とすずと」の「みんな」や「いい」が何を表すのかについて話し合うことで、作者の思いに気付き、自分なりの感想や考えをもつことができる。 (あ) (い) (う)	○	①	●
2	「夕日がせなかをおしてくる」を読み、2つの詩を読んで理解したことを基に自分の考えをまとめ、共有することで一人一人の感じ方等の違いに気付くことができる。 (あ) (い)		②	●

\*活用する学習支援ソフト等： (あ) デジタル教科書 (い) ミライシード [オクリンク] (う) Jamboard

II 本時の学習（1／2）

1 ねらい

「わたしと小鳥とすずと」の「みんな」や「いい」とは何を表すのかを話し合うことを通して作者の思いに気付き、自分なりの感想や考えをもつことができる。

2 人権教育の視点

○感性：自分と他者の考えには違いがあることを実感し、他者の考えを共感的に受け止める。

○知性：主題に迫ることを通し、人や生き物を大切にしようとする考えを深める。

3 展開

【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動 主な発問 予想される児童の反応 [S]	○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 本時のめあてをつかむ。 (10分)  「みんなちがって、みんないい。」って どういうことだろう？  S：みんなってだれのことなのかな。 S：いいってどういうことだろう。	○本時で学習する詩を全員で確認できるように、デジタル教科書を大型モニタに提示する。 【★ (あ) 提示】 ○読み方を確認できるように、教師が範読する。 ○詩の調子をつかむことができるように、教師と追い読みや交代読みをしたり、ペアで交代読みをしたりする。 ○内容理解の手がかりにできるように、詩を拡大したものを黒板に掲示する。 ○児童が主体的に学習に取り組めるように、それぞれの思いや疑問を基にした学習課題を設定する。
2 表現に着目し、詩の理解を深める。 (10分)	○詩の用語である「連」という言葉を確認したり、詩の内容を確かめたりできるように

みんなとは「わたし」「小鳥」「すず」の3つのことですか？

S：「みんな」って「わたし」と「小鳥」と「すず」だけかと思っていただけ、  
「と」があるから他のことも言っているんだな。

S：生き物や人間全部、色んなものでもいいんだな。

「いい」とはどういうことでしょう。  
ほかの言葉に言い換えてみましょう。

S：「すばらしい」「すてき」「すごい」  
「ナイス」「グッド」「よい」

### 3 意見交流をし、考えを広げる。(15分)

自分だったら、どんなものを詩に書けそうですか？班で話し合ってみましょう。

S：イルカかな。イルカは泳ぐのも得意だしジャンプするのも上手だよ。

S：キリンかな。背が高いから遠くまでみわたすことができるよ。

S：チーターかな。足がとっても速いんだよ。

S：クジラかな。とっても体が大きいんだよ。

S：ピアノかな。低い音から高い音までたくさん  
の音が出るよ。

「みんなちがって、みんないい。」  
って、つまりどういうことなのかな。

S：「みんなちがって、みんないい。」というのは、つまりね、「ちがっているのは当たり前のことなんだよ」ということだよ。

S：「みんなちがって、みんないい。」というのは、つまりね、「一人一人いいところがあるんだから、それを大切にすればいいんだよ」ということだよ。

S：「みんなちがって、みんないい。」というのは、つまりね、「ちがっていることを傷つけるようなことをしてはダメ」ということだよ。

### 4 本時のふりかえりをする。(10分)

【★(い)入力・送信】

今日の学習のふりかえりを書きましょう。

第一連と第二連の内容について問いかける。

○逆説表現になっていることに気付けるように、わたし・小鳥・すずができないことについて問いかけた後、それぞれができることを問う。

○詩から自分の考えを広げることができるように、「みんな」が詩に登場するもの以外も指すことを確かめる。その際、叙述を根拠にできるように、題名の「と」に気付いた児童の発言を拾い上げるようにする。

○具体的なイメージがつかめるように、「いい」という表現を分かりやすい言葉に言い換えさせる。

○詩に登場した3つ以外の生き物や物等のよいところについて自分なりの考えをもてるように、最初に全体に問いかけて、イメージに広がりをもたせる。

○多様な考えに触れられるように、生き物のすばらしいところや物のよいところについての意見交流を行う。

○他者との考えの違いに気付けるように、全体でも意見の共有を行う。その際、話し合いがより深まるように、教師が児童の発言をつないだり、意図的指名を行ったりする。

○それぞれのよさについて深めることができるように、出された意見の比較や関連付けをする。

○自分の言葉で詩の内容を捉えることができるように、「みんなちがって、みんないい。」を分かりやすく言い換えた文にするよう促す。 【★(う)提示】

みんなちがって、みんないい。を分かりやすく言いかえると？

「みんなちがって、みんないい。」というのは、つまりね、

ということだよ。

○経験と照らし合わせてふりかえることもできるように、「みんなちがって、みんないい」ということを感じたことがないか問いかける。

○一人一人が考えをもつことができるように個人で考える時間を十分に確保する。

- 意見の閲覧や共有をする中で他者の考えを参考にしたり、自分との違いに気付いたりできるように、各自のタブレットにカードを配信し、ふりかえりを書かせる。
- 個々の考えが一層深まるように、全体で意見の共有を行い、教師が児童の発言をつないだり、意図的指名をしたりする。

【★ (い) 一覧表示】



◆評価項目 (思・判・表) ①

オクリンクの記述から「作者の思いや表現の特徴に気づき、自分なりの感想や考えをもつことができているか」を評価する。

〈本時の感想〉

- S: いろいろなもののよいところについて考えることができた。自分のよさって何だろうと思った。
- S: はじめ、この詩を読んだときには意味がよくわからなかった。けれど、友だちの考えを聞いたら、この詩には「みんなのいいところを大切にしよう」という思いがあるのかなと思った。みんなのいいところをさがしてみたいと思った。
- S: みんなできないことがあるし、できることもたくさんあるから気にしなくていいということが分かった。

【板書計画】

十月二十七日(金)

④ みんなちがってみんないいって、どういうことだろうっ。

わたしと小鳥とずっと 金子みすず

第一連 地面をはやく走れる  
わたしは両手をひろげても、  
お空はちつともとべないが、  
とべる小鳥はわたしのよう、  
地面をはやくは走れない。 空をとべる

第二連 わたしはからだをゆすっても、  
きれいな音はでないけど、  
きれいな音がでる  
あの鳴るすずはわたしのよう、  
たくさんなうたは知らないよ。

第三連 すずと、小鳥と、それからわたし、  
みんなちがって、みんないい

・生き物全部  
・人間全員  
もの全部

・すずい、すてき  
・すばらしい、グッド  
・ナイス、悪くない

個性がある。ちがっているのはあたりまえだから、それでいい。  
よいところがそれぞれあるからそれを大切にすればいい。  
好きな物やとくいなところが、みんなちがうから楽しい。

ピアニ—ひくい音から高い音まで出せる。

イルカー泳ぐのがとくい。ジャンプも上手。

今日の学習を、ふりかえろう